

# 年金は消えませんか

## 年金は本当に消えてしまったのでしょうか？

そもそも「消えた5000万件」とはどういうことでしょうか？

現在私たちが年金に加入すると10桁の基礎年金番号が割り当てられます。これは入っている年金が国民年金であっても厚生年金であっても共通の番号です。この基礎年金番号は10年前の平成9年1月に導入されました。ですから皆さんの持っている年金番号がこの基礎年金番号1つなら、国民年金から厚生年金に移動したり、またその逆に厚生年金から国民年金に移動しても、加入記録をまとめて管理することができます。しかし、例えば平成8年12月以前に会社員を辞めて自営業者になった人は、厚生年金と国民年金の2つ年金番号を持つことになります。

たとえ2つの年金番号を持っていても氏名や住所、生年月日等が一致していれば、基礎年金番号が導入された時に社会保険庁がその2つの年金の記録を結びつけて一つにまとめています。基礎年金番号が導入された当時、年金番号は全部で約3億ありました。それを社会保険庁で統合を進めた結果、現在では加入者約7000万、受給者約3000万の合計1億の基礎年金番号とその加入記録に統合されました。そしてまだどの基礎年金番号とも結びついていない、統合されていない年金番号が残り約5000万件あるということなのです。 （裏面に続きます）

この5000万件は、決して「消えた」記録ではありません。記録は社会保険庁に残っています。またその多くは受給前に亡くなった方や支払い期間が短すぎて受給条件を満たしていない記録が多いのではないかと社会保険庁では見えています。とは言え社会保険庁の試算では、少なくとも25万件950億円くらいの年金が時効により請求権が消滅しているだろうと考えられています。これらの未払い年金は確実に支払われなければなりません。また数は多くありませんが、社会保険庁の事務処理のミスなどで記録が残っていないケースもあります。これらも早急な対応策が必要です。そのためにも今審議されている年金時効撤廃特例法案が成立し、政府による迅速で確実な対応策を取る必要があるのです。

これから行う政府の主な取り組みです。

1年以内に5000万件全ての徹底的なチェックを行います。

- ・特に既に年金を受け取っている方々のデータを優先的に調べます  
まもなく年金を受け取る資格を得る皆さんには、58歳の時に加入履歴をお知らせします。記録漏れがないかどうかのチェックができます。
- ・実はこれまでも58歳時の加入履歴通知は行ってきました。

将来年金を受け取る皆さんには、「ねんきん定期便」で毎年納付保険料と受け取り見込み額をお知らせします。更に35歳、45歳時に加入履歴をお知らせします。

完璧を期するためコンピュータのデータ記録だけでなく紙やマイクロフィルムの記録を突き合せて調べ、その都度進捗状況を公表します。

24時間土日も通じる電話相談等窓口の対応を充実させます。

**おこのぎ八郎さんを支援する会**

横浜市神奈川区反町1-7-1

TEL:045(323)6000      FAX:045(323)2974

E-mail: g00833@shugiin.go.jp

<http://www.hachirou.com>